

NPO法人 むつ市陸上競技協会

● 沿革

歴史を遡れば、太平洋戦争前の当地方には、陸上競技協会等の組織はなく、全国青年大会予選会、町村大会、下北郡大会等の陸上競技会は、田名部、大湊両町体育協会や青年団により運営されていた。

当時、開催された「オール田名部・オール大湊対抗陸上競技大会」は、地域を代表して覇者争いが激しく盛大であった。

また、毎年5月27日の海軍記念日に開催された「大運動会」は、各地区・学校対抗であり、競技種目も数多くあり、それぞれの地区・学校の名誉を掛けて大盛況を博したとある。このように、陸上競技にかける地域の住民の思い入れは相当なものであって、その流れが昨今のむつ市陸上競技協会に力強く引き継がれている。

むつ市陸上競技協会は、1959（昭34）年、旧田名部町と旧大湊町との合併による「むつ市」の発足により、翌1960（昭35）年、田名部町・大湊町両陸上競技協会の統合によって誕生し、両協会が加盟していた下北郡陸上競技連盟は解散し、当協会と下北郡陸上競技協会に分かれた。

この頃、下北郡内は、田名部町・大湊町・大畑町・大間町・川内町・佐井村・風間浦村・脇野沢村・東通村の行政区があり、各町村に陸上競技協会が設立されていたものと思われる。

当会の前身となる下北郡陸上競技連盟は、1947（昭22）年5月18日、初代会長である杉山勝雄（当時青森県議会議員：元青森陸上競技協会長杉山肅むつ市長ご尊父）を中心に結成され、同年10月19日、連盟最初の主催大会である「下北陸上競技選手権大会」を田名部小学校校庭にて開催し、今日のむつ下北地方陸上競技界発展の礎となった。

下北郡陸上競技連盟の発足を契機に、田名部町陸上競技協会は武田寅之助が、大湊町陸上競技協会は佐藤健次がそれぞれ初代会長となり、青年団員・同好会員を集い組織化された。

この頃、下北郡内の大畑・大間・川内・佐井・風間浦・脇野沢・東通、町村陸上競技協会が発足したものと思われる。

1962（昭37）年、むつ市陸上競技協会初代会長であった佐藤健次が下北郡陸上競技協会長に移籍したことにより、後継した2代会長本山勝司は、今日の組織体制や審判団技術向上に尽力し、1985（昭60）年1月までの23年間の永きに亘り協会発展に大きな足跡を残した。

白濱匡章3代会長は、むつ市体育協会長、青森陸上競技協会副会長の要職を

兼務しながら、1990（平2）年、青森県営陸上競技場に次ぐ、青森県内では市町村初の日本陸上競技連盟公認第2種全天候型陸上競技場の完成に尽力した。

1995（平7）年、当会顧問杉山肅むつ市長は青森陸上競技協会長に就任し、2007（平19）年まで青森県の陸上競技発展のため尽力された。

2005（平17）年、第4代会長に就いた吉原朋治は、2011（平23）年青森陸上競技協会長、東北陸上競技協会長に就いた。

2008（平20）年、特定非営利活動法人（NPO法人）格を取得し、同年4月から9年間、むつ市むつ地区体育施設（むつ運動公園、むつ市民体育館、むつ市釜臥山スキー場等）の指定管理を受託し、協会の財政確立、競技者の強化、施設の有効利用等を奨めた。

当会は、陸上競技の振興、強化、普及並びに充実した組織活動が認められ、1993（平5）年1月、青森県教育委員会より青森県体育社会優良団体表彰、同日、財団法人青森県体育協会より青森県体育社会優良団体表彰、1995（平7）年9月、財団法人日本陸上競技連盟普及功労表彰、2006（平18）年9月、むつ市長表彰、同年10月、文部科学大臣表彰等数多くの栄を得ている。

現在、日本陸上競技連盟公認審判員、S級16名・A級16名・B級80名合わせて112名を擁している。